

信州大学知の森基金を活用したグローバル人材育成のための短期学生海外派遣プログラム
実施状況および成果(広報用)

プログラム名	シンガポール夏期海外単位認定プログラム	
学部・研究科名	医学部	
プログラム実施期間	2018年8月10日～8月19日	
研修先(国・都市・施設名)	シンガポール・シンガポール総合病院, KK女性と小児の病院, チャンギ総合病院, プライト・ビジョン病院等	
参加者数	10名	知の森からの支援者数: 2名
プログラム概要	平成25年にシンガポール総合病院と信州大学医学部が締結した学術交流協定を基盤として、医学部保健学科学者が、シンガポールの保健・医療現場、教育施設を見学・体験することにより、アジア先進国の保健医療の現状を理解し、将来国際保健・医療を担うことのイメージを広げることを目的とした新規プログラムである。本プログラムは、医学部保健学科夏期海外研修プログラムの一つとして位置づけ開始したプログラムで、平成30年度は、シンガポール総合病院, KK女性と小児の病院, チャンギ総合病院, プライト・ビジョン病院等の施設見学ならびにシミュレーション教育などを体験し、シンガポール工科大学を見学するプログラムとなっている。本プログラムは、信州大学医学部保健学科全専攻(看護学, 検査技術科学, 作業療法学, 理学療法学)の全学年の学生が参加可能である。	

実施状況・成果

◆主な研修先

シンガポール総合病院, シンガポール工科大学, チャンギ総合病院, プライト・ビジョン病院, KK女性と小児の病院, ベドック・ポリクリニック

◆参加人数

看護学専攻: 8名(1年生1名, 2年生1名, 3年生6名); 理学療法学専攻: 2名(2年生2名)

◆成果

最初の訪問先、シンガポール総合病院では、シンガポールの保健医療政策の概要を学んだ。同院はシンガポール全域のみならず東南アジア地域を医療圏としており、拠点集約型の高度医療が展開されている。先進的な医療設備により東南アジアの中心的な医療施設としての役割があるため、近隣諸国の受診希望者を受け入れていた。専門領域により特化した病院(病棟)があり、各領域において受付、診察室、薬局等が設置されていた。また、受診者は識別タグにより所在が確認できるなど、先進的な院内の診療マネジメントが実感できた。また、近隣の教育機関と連携し、医療者の養成に力を入れている様子が理解できた。集中治療室(ICU)を模した部屋に練習用ロボットが設置されており、気管挿管やその際のトラブル対応など、室外で教員が見守る中でシミュレーションが可能となっていた。以上のように、東南アジアの診療および医療系教育機関の一大拠点を見学することができた。

シンガポール工科大学では、シンガポールの保健医療の講義の後に教育設備を見学した。人体の構造と機能を学修するため、人体解剖模型とともにバーチャル解剖表示装置が導入されていた。さらに、CTなどの画像診断を学ぶイメージングの端末が多数備わる教室が近接しており、解剖と画像診断を照合することが容易であるため、効果的な学修が可能と考えられた。実習室では、実技の様子がカメラを通じてモニターに映写されるなど、機材を活用した教育システムを見学できた。現地の学生と昼食を共にして交流ができた。

チャンギ総合病院では、中国の研修生と一緒に説明を聞き、自動化された配膳システムやセキュリティシステムなど、進化した病院設備が見学できた。患者も病院スタッフ(看護師)も国籍は多様であり、患者ネームカードには使用言語が記載されるなど、国際的な医療機関である事が実感できた。このような背景から研修を担当したスタッフは言語の障壁に理解があり、研修学生に分かりやすい英語でゆっくり説明してくれた。学生はスマートフォンの翻訳機能を使うなどして質問や会話による交流ができた。

そのほか、KK女性と小児の病院、ベドック・ポリクリニックなど、医療機関それぞれにおいて壁紙や照明等の内装の工夫、そして植栽や外構等の環境が整備されている事が学生の印象に残っているようである。

シンガポールにおいても高齢化が徐々に進行しており、高齢化社会への対応が社会的課題になっているため、健康長寿を目指した保健医療が重視されていることが理解できた。また小国であるからこそ、国の発展には人材育成が大切であるとの認識に基づき、教育が重要視され、設備の充実のみならず国際交流も積極的に推進している様子が理解できた。

学生の声①-医学部 学生

私は始めこの海外研修に単純に短期留学に興味があったからという理由で参加を決めた。しかし、シンガポールの医療制度・健康政策を知り、実際に現地ですさまざなな人・施設・仕事に出会い話を聞き、医療に対する更なる興味、今回は理解しきることのできなかった専門分野への悔しさと学ぶ意欲がとても強くなった。これから続く大学生生活、医療者としての生活、この気持ちをどうか忘れずに精進していこうと思う。

学生の声②-医学部 学生

今回の海外研修ではシンガポールの病院についてのみではなく、シンガポールの歴史、文化、人柄も知ることができた。理学療法士は日本とは異なる部分が多く比較できることもたくさんあったが、どちらがいいということではなく、それぞれの良さも感じられた。観光もいろいろ見学できたことでシンガポールについて知る一つの機会となった。私は将来海外で働きたいと考えており、今回の研修はとても有意義なものとなった。とてもいい経験ができた。ありがとうございました。

シンガポール総合病院にて



シンガポール総合病院のシミュレーション教育

